

「主はあなたを守る。どう見聞きし、判断するか？」

使徒 18 章、19 章

私たちは先を見る目を持っているでしょうか。皆さんは「たまごボーロ」を知っているでしょうか？恐らく誰もが知っているお菓子だと思います。このお菓子を開発した竹田製菓の社長は、物事を見る目線が人と違うと言われていた人でした。彼の目的はいつも「自分の利より相手の利を図ること」でした。このように目的を的確に見出しテーマをはっきり定めていた人でした。そういう人はブレません。社長はいつもどこにいても変わらない人だと言われていました。そのような中から、あの誰もが知っている「たまごボーロ」が生み出されたのです。今しか見ることができないでいると、私たちは何か良くない状況が起きたとき、それに対して影響を受けてしまうことになります。問題を知っているのに解決しないのは「テーマと目的がはっきりしていない」からです。自分のテーマがわかれば弱点がわかるので解決できます。私たちは物事がうまくならない前提で物事を考えるので正しい方法を選ぶことができないのです。しかし神はあなたの弱い時に御業を顕して下さいませ。その事を今日の聖書箇所から見えていきましょう。

■ 神はあなたの弱いときに御業を表す

パウロの第二次宣教旅行の後半が始まりました。アテネを去ってコリントに向かったパウロですが、そこでアクラとプリスキラという夫婦に出会います。ローマ皇帝クラウデオのユダヤ人退去命令によってローマから逃げてきていたのです。彼らと同じ天幕作りを職業にしていたパウロは彼らと共に住み、そこを拠点に宣教をしていきました。しかしパウロの話を聞いたユダヤ人やギリシャ人は反抗し、暴言を吐きました。コリントに来る前、アテネでも宣教をしたパウロですが、アテネの人々も彼をあざ笑い、信じませんでした。同じようなことが繰り返して起こっていたパウロはさすがに気落ちし、疲れていたのではないのでしょうか。そんな時、神様はパウロの前に幻によってあらわれ、「恐れなさい、語り続けなさい。私があなたを守る」と語られたのです。こうして元気を取り戻したパウロは、もう一度立ち上がり、神のこぼを教え続けました。しかしその後、ユダヤ人たちはもう一度パウロに反抗し、彼を法廷に引き連れて行き、彼を訴えました。しかし地方総督ガリオスが彼らの訴えを退け、パウロは守られました。このガリオスはローマ皇帝ネロの幼少期の家庭教師としても知られています。ユダヤ人たちがパウロを法廷に引き連れて来た時、このように対処しました。使徒 18:14 「パウロが口を開こうとすると、ガリオスはユダヤ人に向かってこう言った。「ユダヤ人の諸君。不正事件や悪質な犯罪のことであれば、私は当然、あなたたがの訴えを取り上げようが、18:15 あなたがたの、ことばや名称や律法に関する問題であるなら、自分たちで始末をつけるのがよからう。私はそのようなことの裁判官にはなりたくない。」」一見やる気のない回答に聞こえますが、これはとても知恵深い言葉です。このガリオスの対処によって 16 年もの間、パウロは自由に宣教をすることができたのです。このようにパウロが弱っていた時、神様はパウロの前にあらわれ、勇気づけてくれました。そしてユダヤ人に訴えられたピンチの時にも、守っていただきました。だから、たとえ今どんな状況にあったとしてもあきらめないでください。神様は私たちが弱さをおぼえているとき、苦しんでいるとき、決して私たちを見捨てません。

■ 神は必ずあなたを守る

神様は必ずあなたを守られます。それを 100% 信じ切ることが必要です。私たちは過去に起きた記憶や、悪いことが起きている現状を見て、悪いことが起きることを勝手に妄想して、そのうえで、神様を信じようとするのです。それでは神様を 100% 信じているとはいえません。人の愛、人の信頼のようには、本当に大切なものは目に見えないこと。その見えないもののなかで生かされているということを私たちは知っています。だからこそ神様の真理を信じてください。私たちがすべきことは、私たちに必要な神様からの言葉を聞き分け、それを信じるることなのです。

■ バイマ さばきの座の判断

このバイマという言葉。聖書のなかで 2 つの箇所に出て来ます。イエスがポンテオピラトによって裁きを受ける場面です。(マタイ 27:19) また、ピラトが裁判の席に着いたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかわり合わないでください。ゆうべ、私は夢で、あの人のことで苦しいめに会いましたから。」ピラトはちゃんと神様からの言葉を聞いていました。しかし、ピラトはもう一つの声も聞いていました。当時、過ぎ越しの祭りの時に、総督は囚人を一人釈放する習慣がありました。そこで民衆に、イエスカバラバかどちらを釈放してほしいかを聞いたのです。それに対して、民衆は「バラバだ」答えたのです。2 つの声を聞いていたピラトは、結局、間違った方の声を聞き、イエスを十字架につけま

した。バイマ(さばきの座)という言葉がでてくるもうひとつの箇所があります。

(II コリント 5:10,11) なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為にに応じて報いを受けることになるからです。こういうわけで、私たちは、主を恐れることを知っているの、人々を説得しようとするのです。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかし、あなたがたの良心にも明らかになることが、私の望みです。神が正しいさばきを行うように、私たちも正しいさばき、判断を行わなければいけません。私達は鳩の様に素直に蛇のように聡くあることが大切です。だから感情的になって、間違った判断をしないように、一人になり静まる時間を持っていきましょう

■ 友を得よ 助ける友

苦しみや弱さをおぼえるとき、私たち一人では神様との関係を保つことが難しいことがあるでしょう。そんな時、信仰の友の助けが必要になります。それは神様から必ず与えられます。いやもうすでに与えられているはずです。あなたの為にいつも祈ってくれている人がいるということをおぼえてはいけません。パウロが傷つき、落ち込んでいた時、神様はアクラとプリスキラとの出会いをパウロにあたえました。そして、パウロは彼らに勇気づけられ、もう一度立ち上がって宣教をすることができたのです。友。それは家族であり、一番近くにいる人です。私たちを励まし、そして時に違うと言ってくれる人です。それはもしかしたら自分にとっては苦手な人、邪魔だと思っている人なのかもしれません。「人はその友によって磨かれる」聖書にある通りです。

■ 聖霊を受け取る。悪に立ち向かう力。使徒 19:2~6

私たちは古い自分を持ったままで、神様に出会いました。そしてこの古い自分はいつでも出て来ます。どれだけ消し去ろうとしても、間違った決断をさせようと、出て来ます。その時に自分に与えられた忠告を受け取る力を与えるのが、聖霊の力です。正しい言葉を私たちが聞くとき、私たちはそれを受け取ることができません。自分は悪くない、自分が正しいという思いがあるからです。そんな時、神様は御霊によって私たちに語り掛けてくださいます。そして、私たちが正しく祈れない時、神の言葉によって祈ることができなくなります。私たちが神様が与えようとしてくださっているものを、否定してはいけません。聖霊は私たちの心を溢れさせてくださいます。聖霊の力がなければ私たちは何もすることができません。聖霊の力を求め、受け入れて行きましょう。

■ すべてを造られた神

創世記 1 章 1 節「初めに、神が天と地を創造した。」この言葉で、聖書は始まります。「初め」は時間です。神様は天と地だけでなく、時間や空間までもすべて造られたのです。相対性理論を知っていますか。例えば、光と同じスピードで進む宇宙船があったとして、そのスピードで宇宙旅行をして帰ってきたら、その人たちはみんな歳を取っていますが、地上にいた人は若いままです。簡単に説明すると、これが相対性理論です。つまり、スピードによって、または質量によって時間軸が変わるといことです。とても理解しがたい法則です。しかしこの法則も、時間も空間もすべて造った方が神様なのです。私たちが考える時間と、神様にとっての時間はまったく違うものなのです。光は別の速度で進んでいるのです。その事を受け取りましょう。だから現状を見て不幸だと嘆くこと自体がナンセンスなのです。イエス様は十字架で私たちの罪のために死なれ、そして 3 日目によりみがえられました。イエス様は予言された通りたった 3 日で神殿を建て直し、私たちの死という問題を解決されたのです。神様との関係です。今、神様はあなたと神様との関係を回復されることを求めています。

さいごに

神様との関係を回復するために、聖霊を求めていきましょう。そして、この聖霊の存在を私たちは否定してはいけません。私たちが神様を信じ、人生が変えられたのは聖霊の力が働いてくださったからです。「初めに、神が天と地を創造した。」といわれたあの日から、今日まで、聖霊は働いています。そして悪霊も同時に今日も働いています。私たちを壊すためにです。私たちがはどちらの声を聞きますか。神様の声のいつも聞くことができるように、聖霊を求め、神様との関係を回復していきましょう。信じてください。神様は必ずあなたを守ります。

(要約者:永井匡史)

(2020年9月20日)